

プロサッカークラブにおける地域密着度に関する研究 A Study on Community Relationship Scale of Professional Football Club

1K08B073-4

指導教員 主査 木村和彦 先生

栗田 勇輝

副査 作野誠一 先生

【目的】

筆者は幼いころから 20 年近くサッカーをプレーし、サッカー第一の生活を続けてきた。このような環境でサッカーを続けることが出来たのも、物心ついたころから J リーグが身近にあったことが大きな要因であると考えられるようになった。1998 年の横浜フリューゲルス経営合併を目の当たりにした出来事は、筆者のサッカー経験のなかでも特別な位置取りを果たしており、その実体験を通じ、J リーグが発足してから現在に至るまで提唱し続けている「地域密着」の現状はどのようなものなのかという疑問を検証したいと考えた。

そこで、概念的な意味でのみ示されることの多かった地域密着というものを数値にすることで可視化し、その結果から J リーグにおける地域密着の現状を検証する。よって、本研究の目的は、

1. 現在（2012）J リーグに所属している各クラブの地域密着指数の可視化
 2. 可視化された地域密着指数を基に、各クラブの地域密着の現状を検証する
- 以上の 2 点と言える。

【方法】

上記の目的を明らかにするために、本研究では J リーグの公式ホームページ及び所属する各クラブへの郵送方式による質問紙調査を用いて必要な情報を収集した。

調査内容はクラブが提供するサービスを Output 項目、地域資源を取り入れるサービスを Input 項目と定義し、各 5 項目の計 10 項目とした。

結果は Microsoft Office Excel 2010 を使って求めた標準偏差を用いて標準得点（レベル）を算出し、最終評価は全項目の平均値を採用した。

なお、本研究では地域密着を「地域名を冠した名を持ち、恒常的に施設やイベントを通じたクラブと市民の相互的な活動を継続していること」と定義した。

【結果】

2011 年度 J1 所属クラブの中で、最も総合得点が高かったのは浦和レッズの 55.82 点であった。特に入場料収入の項目で圧倒的な数値を算出し、

他項目でもバランス良く得点を重ねた。今後は、講演件数等を増やせば、より地域に根差したクラブになることが出来ると考えられる。

J2 所属クラブの中で、最も総合得点が高かったクラブはジェフユナイテッド千葉で、獲得点数は 61.78 点である。特に巡回教室の参加人数の項目で圧倒的に高い数値を算出した。この項目で高い数値を算出しているということは、地域の人々とより密接にコミュニケーションを図れている証であり、地域に根差したチーム作りが出来ていると言える。

J1、J2 共に総合得点で 1 位を獲得したクラブに共通して言えることは、項目別に比較した際に圧倒的な数値を算出する、「強み」と言える特徴を持っていることである。

【考察】

各クラブを地域密着指数で比較すると、J1 ではチーム間の格差が少なく、平均的に高い数値を持ったチームが多く、グラフに均等性を読み取ることが出来た。したがって、J1 所属の 18 クラブは、得意な面と不得意な面が存在するものの、バランス良くホームタウンと連携を図れている現状を理解することが出来た。今後は、各クラブが得意な面と不得意な面を自覚し、地域密着活動に対してアプローチしていく必要がある。

一方、J2 では 1 位の千葉と最下位の富山との総合得点に 20 点近くの差が付いてしまった。J2 には新規参入クラブが多いためにこのような格差が生じてしまったものと考えられる。J1 を経験したことのあるクラブは軒並み地域密着指数も好成績を収めており、クラブごとの地域密着への意識の違いがリーグ戦の結果にも直結していることが推測できる。今後は、J リーグへの参入を目標に活動している地域クラブへの成功モデルを示すことが出来るような活動を、残留している新規参入クラブには期待したい。